

課題学習「無常ということ」

藤 谷 博 亮

一 課題学習と読解

課題学習の目標として色々な項目が挙げられるが、文章を読解するということもその一つに入れることができるだろう。課題によって文章の読解がより容易になり、深まっていくのである。乏しい資料を基にして、課題学習と読解について考えてみたいと思う。

二 実践

1、日時・対象・教科書

日時 昭和四十二年七月

対象 三年普通科

教科書・単元 「高等学校 現代国語Ⅱ」単元Ⅱ「無常というこ

と」小林秀雄（中央図書）

2、単元目標

作者の感じたこと・考えたことを読みとる。

イ、段落ごとに「事柄」と「考えたこと・感じたこと」とを区別してまとめる。

ロ、「思い出」についてまとめる。

ハ、「一種の動物」でない人間とはどのような人間か考える。

ニ、「無常」ということについてまとめる。

ホ、文章の構成を図示する。

へ、作者の「歴史」について書いてある文章（注1）を読んでまとめる。

「無常ということ」は評論文に属するので、作者の感想や意見を筋道立てて読みとることを単元目標とした。イへは、単元目標を具体化したものである。

注1「歴史と文学」一部引用

3、課題と配当時間

A 単元目標イへニを「まとめにしたプリント（注2）」に解答する。
二時間

B 文章の構想を図示して理解するために、プリント（注3）に解答する。
一時間

C 同じ作者の「歴史」について書いてある文章を引用したプリントを読んでまとめる。

注2 「課題Aのプリント」

「無常ということ」を読んで、次の間に答えよ。

問一、次のイ〜ネに適切な語句を記入せよ。

前段（範囲を頁と行数で示す。以下「頁・行」と略す。）

人事 柄V

1 (頁・行)

「一言芳談抄」を読む

() ()

2 (頁・行)

() ()

3 (頁・行)

後段

1 (頁・行)

() ()

例 () ()

川端康成氏との会話

2 (頁・行)

() ()

3 (頁・行)

() ()

一時間

△考えたこと・感じたことV

心の動き

() ()

() ()

() ()

() ()

() ()

() ()

() ()

() ()

() ()

注3 「課題Bのプリント」

問 次のイ〜リに適切な語句を記入せよ。

(前段1)

(1)

(2・3)

() () () () () () () ()

(後段1・2)

(3)

(3)

() () () () () () () ()

問二、作者は、「思い出」について、どのように考えているか。
問三、どのような状態の人間を、「二種の動物」でない人間というのか。
問四、作者は「無常」ということをどのように考えているか。

課題Bは、課題Aの繰り返し返してみたいになるが、矢印で示した部分

の内容がそれぞれ対応していること、最後に「無常」について述べ
てしめくくってあることをわからせるためのものである。

4、解答例

×印は、解答が不十分であることを示し、それ以外のものは正解
である。

課題Aについて

生徒1(女)

問一、

イ、いい文章だと感じた。

ロ、比叡山に行く。

ハ、ひどく心が動き、あやしい思いがしつづけた。

ニ、同じ文を目の前にする。

×ホ、名文とは思われるが、自分を動かした美しさは見つけられ
ない。

×ヘ、その美しさをつかむ、心身の状態を取りもどす術を知らな
いのではないかと考える。

ト、どのような自然の諸条件に、精神のどのような性質が順応
したのだろうかと考える。

×チ、歴史の見方や解釈という思想について。

リ、歴史は動かしがたくて、美しいと感じた。

ヌ、晩年の鶴外についての説。

ル、考証を始めるに至ってやっと歴史の魂に推参したのだから
と考える。

ヲ、古事記伝を読んだ。

ワ、解釈を拒絶して動じないものだけが美しい。

カ、生きている人間とは、人間になりつつある一種の動物であ
ろうか。

×ヨ、一種の動物という考えの糸がきれたままでいた。

タ、記憶するだけではないけない、思い出さなくては。

レ、思い出すということについて考える。

ソ、上手に思い出すことはむずかしい。しかし成功の期はある。

ツ、無常について考える。

×ネ、現代人には無常ということがわかっていない。

×問二、思い出とは動じない美しい形として現われる。

問三、記憶するだけではなく、動じない美しい形として現われる

歴史を思い出す人間。

問四、無常とはけっして仏説というものではなく、いつ、いかな
る時代でも人間の置かれる一種の動物的状态であると考えて
いる。

生徒2(女)

問一、

イ、いい文章だと思った。

ロ、比叡山に登った。

×ハ、「一言芳談抄」が心に浮かび、文の節々が心に滲み渡った。

ニ、「一言芳談抄」に関連して。

ホ、自分を動かした美しさはどこに消えてしまったのか。

×ヘ、けっして美学には行き着かない。

×ト、そんなことはわからない。わからぬばかりでなく、そうい
うぐあいな考え方がすでに、一片の洒落に過ぎないかもしれ

ない。

チ、歴史の見方、解釈について。

リ、歴史はいよいよ美しく感じられた。

又、晩年の鷗外。

ル、膨大な考証を始めるに至ってやっと歴史の魂に推参。

ヲ、古事記伝。

ワ、解釈を拒絶して動じないものだけが美しい。

カ、生きている人間は、人間になりつつある一種の動物。

ヨ、歴史と過去について。

タ、思い出さなくてはいけないだろう。

レ、上手に思い出すこと。

ソ、時間という蒼ざめた思想から逃れる唯一の有効なやり方。

ツ、無常について。

×ネ、常なるものを見失ったからである。

問二、思い出は美しくみえるというが、我が過去を飾りがちな

のでなく、過去の方で我々によい思いをさせないだけ

で、思い出が我々を一種の動物であることから救う。

問三、解答なし。

×問四、常なるものを見失った。

生徒1・2共に不十分な答であるのは、へ「途方もない迷路に押

しやられる。」ネ「いつ、いかなる時代でも、人間の置かれる一種

の動物的状态である。」の二つ。

課題Bについて、正解は次の通り。

イ、比叡山に登る。

ロ、同じ文を前にする。

ハ、歴史。

ニ、思い出。

ホ、いい文章だ。

へ、ひどく心が動く。

ト、動かしがたいものだけが美しい。

チ、上手に思い出すことはむづかしい。

リ、一種の動物的状态。

三 反省

時間数が予定よりオーバーしてしまい、その上はじめに予定した課題を全部終えることができなかった。課題Aに時間を取られ、BとCを十分考える時間がなかった。もう少し綿密な計画を立てるべきであったと反省している。

また、プリントを主とした課題だけで終わったが、これで読解が十分に行なわれたか疑問である。ほかの形式による課題も考えてみるべきだと思ふ。

課題の内容については、課題A・B・Cは自分なりに決定したものであるが、教科書の欄外にある小さな問(注4)や「研究の手びき」(注5)をもう少し考慮に入れることができなかったかと思ふ。欄外の問は、語句の解釈や文章の部分的な理解を深めるためのものが多く、これらのものも含めた課題によって文章を読解していくことを考えてもよいと思ふ。

注4「欄外の問」次のような問が十三ある。

＊「おそらく」を受ける語に注意する。

* 「歴史の魂に推参した」とは、どういう意味かを考える。

* 「同じようなもの」とは、どのようなものかを考える。

* 「蒼ざめた」という比喩の意味を考える。

* 「常なるもの」とは何かを考える。

注5 「研究の手びき」

一、作者は、「一言芳談抄」からの引用文の中で、特にどの部分に心を強く打たれたのだろうか、そして、それはなぜだろうか、話し合ってみよう。

二、作者は、歴史について、どのように考えているか、まとめてみよう。

三、作者は、「無常」ということを、どのように考えているか、わかりやすく説明してみよう。

四、文体上の特色を調べ、整理してみよう。

五、小林秀雄の「当麻」^{たいま}、「徒然草」^{さげすも}、「実朝」^{さねとも}（「無常といふ事」所収）などの評論を読んで、読後の感想文を書いてみよう。

四 おわりに

評論文は、その性質上、本文を読解することが大きな目標となるので、課題も勢い読解中心のものとなってしまった。しかし、読解のためにどのような課題が必要であるかわからないままに取りかかり、尻切れとんぼに終わってしまったことは大いに反省すべきである。今後も、読解のためにはどのような課題がより効果的であるかについて模索していこうと思う。

（前山口県立久賀高等学校教諭）

（現山口県立岩国高等学校教諭）